

2015年2月18日

NHK 奈良放送局  
局長 岩崎治幸 殿

NHK 問題を考える奈良の会  
代表 佐藤 真理

### 「NHK 問題を考える奈良の会」発足のご挨拶

貴職におかれましては、マスコミを取り巻く厳しい状況の中、公共放送 NHK 実現のための職務に精励され、ご多忙のことと存じます。

昨年1月25日 舛井勝人氏は NHK 会長に就任時の記者会見において、特定秘密保護法に関する質問に対して「まあ一応通ってしまったんで、言ってもしょうがないんじゃないか・・・」などの発言をされました。

最近では、2月5日の定例記者会見において、舛井会長は、記者から NHK は「従軍慰安婦」問題を取りあげる可能性はあるのかとの質問に対し、この問題に関する政府のスタンスがなかなか見えない、夏にかけて政府のきちとした方針が分かるのがポイントだろう、という趣旨の発言をされました。

これらの発言は、公共放送 NHK 自らが、自主・政権からの独立を根底から否定するものであると言わざるを得ません。

自民党は、昨年12月の衆議院選の公示前に在京テレビ局に「選挙時期における報道の公平中立ならびに公正の確保についてのご願い」と題する文書を、各社の責任者に手渡し要望しました。その後 NHK は要望書の受け取りの有無さえ明らかにしていません。そして、この要望に沿うような内容の報道が多く見られます。爆笑問題の新春バラエティ番組に用意したネタが、NHK の番組担当者によってカットされるという問題が起きました。

折しも、戦後70年、日本の将来方向を大きく決定づける問題が目白押しです。特定秘密保護法施行、集団的自衛権行使容認の閣議決定を受けた安全保障法制の整備、日米ガイドライン（軍事協力の指針）の見直し、武器輸出三原則の緩和、沖縄辺野古新基地建設の推進、原発再稼働、憲法「改正」などなど。このような時代の中で、公共放送 NHK が、政府・政権与党の「広報宣伝機関」となってしまっただけで、戦前 NHK が実質的な国営放送、時の政府の方針に逆らえない機関になり、悲惨な戦争へ突き進むことに加担した痛苦の歴史を繰り返すことになりかねません。

政権与党の、干渉・介入を許さないこと、放送・メディア各社に、不当な干渉・介入に毅然とした態度で対応させること、報道・製作現場での萎縮をさせないこと、これらのどの課題にも、視聴者・市民の強力な粘り強い運動が必須であると考え、「NHK 問題を考える奈良の会」を立ち上げました。また、NHK で働く心ある放送の担い手の皆さんと力を合わせることも重要であると考えます。

「政府の NHK」から「視聴者・市民の NHK」にするために活動する所存です。